

幼き者を「ひきいたす」ころ

— フレーベルにうたれつゝ —

齋藤善太郎

「何こいふ敬虔さであらう、」私は今フレーベルを讀みながら、實にさう撃たれたのでした。讀んでゐた所こいへば、

レクレム版の「人の教育」にして七一頁以下、一一五頁までのところで、大體幼児期のこころをこまごまこ、具體的に扱つてゐるところで、大してフレーベルらしく思想的乃至は宗教的でもない所であります。食物ミか着物ミか、幼兒の扱ひ方のこまなきが主になつてゐる所であります。しかしそれで、其のかげを貫いてゐるフレーベルの精神の敬虔なるいぶきが、なんまなく吹きつけて來るやうな氣がするのです。そして此の事は、たぶん私一箇の主觀的感じのみでは無く、例へば有名な序説の所、「人の教育」の最初の所なきに、結晶して、富嶽の如く聳え立つあのフレーベル的精神の、客觀的ないぶきが、こゝにも吹きつけて來てゐる

のである、こ思ひます。)

同じ所を讀みながら、

「まさしく、引き出す、エールツィエン erziehen するものは此のこまだな」ミ、人のよく言ふ *Educatio* 以來の「教育」こいふ言葉に宿るこゝろは之だなこ、更めて想ひ、教へられてゐたのでした。「内部も無く「外界」も無く、それから未分以前の世界にありながら遊戯しつゝある子供、しかし其の子供の内部には既に本有的に「本質」が潜み、眠つてゐる、そして今遊戯しつゝ、其の「内なるもの」、内部的本質が——ギリシヤの海の中からヴィナスが生れいづるやうに——そうつみ生れ出でつゝある、父よ、母よ、人々よ、「静かにく」、こいふやうにして「遊戯」を通じての成長を語るあたりなき、單なる保育、こころでない、そこには大

な背景がある、大きな宇宙がある、さういふ宇宙、大自然、「自然」、の中から、今子供が、若しくは本来の子供が、生れつゝある、我々は然うものとして子供を見守りつゝ、子供をば大きな「自然」の中連れてゆかねばならぬ、さういふやうにして述べてゐるあたり、私は、「引き出す」さういふことは斯うも嚴かなものか、敬虔に撃たれながら、更めて其の仕事の深さ、大いさをつくづく「秋の眞澄の空に観入るやうに——想はしめられました。(おそらく、かうして見ます、)「引き出す」は、今文化に關してやかましく云はるゝヒューマニズム若しくは「人本的傾向」の問題とも關連して、もつとく反省しない、つい「引き出す」この意味をさりそねて、こざかしくも小手先の扱ふことに終るんだなあ、更めて反省せしめられます。そして之もやかましく云はれてゐる所謂宗教々育の問題とも觸れて、「我はたゞ水注ぎ草きるもの、育つるものは神なり」(詳しくはコリント前書第三章)のこゝろに、もつとく徹しきらねばならぬなあ、と思はれます。そして私を、たゞはばカールバルト的研究をそゝりたてゝくれます。

速習英語會話講習會特設

世界教育會議はいよゝゝ此の夏に近づきました。幼稚園、學齡前部にも多くの有力なる權威者が世界から集まられる事と思ひます。我國の方の出席者諸君もそれを樂しみにされてゐるこゝであります。

就てはその會で外國の方々を接する前に、英語の耳ならし、口ならし、をして置くことは、極く必要であり、多數の方の御希望でもありません。

東京保姆講習所を會場として催される、次の會は、そのため至極適切のものに信じます。

倉橋惣三

▼期間 五ヶ月間

自二月十五日(毎週、月曜日、水曜日)
至七月十四日(夜ノ部午後三時—五時)

▼場所 小石川區原町一〇一 東京保姆講習所

▼講師 一、エル、グレセツト

一、エツチ、タツピンゲ

講習料一ヶ月ニ付 四圓

此の外に手数料として入會の際金一圓也を申受けます。

▼尙右の會に御興味のある方々の御出席を希望致します。